

本書は、木材に関連したトピックスを見開き 2 ページで解説した事典である。用語については、2 ページという制約のなかで可能な限り分かり易い表現が用いられており、木材に関心を持つ者であれば高校生から読むことが出来る。もちろん、平易さを優先して解説を浅くするということはしておらず、大学専門課程の学生、業界関係者、研究者など幅広い層に亘って読まれることを想定して書かれている。

見開き 2 ページというのは、読み手にとってはたいへん嬉しい仕様である。まず、文章中に引用されている図表を確認するためにページを前後に繰る必要がない。また、文章全体が一目で見通せるために文章の流れが理解しやすく、各項目に対する解説がコンパクトであることから、内容が頭にとどまりやすいため、読んだ内容を「受け売り」したくなる、という副次的効果もある。他者からの質問に対してコンパクトに回答できず、長々と講釈を垂れてしまう傾向にある小生などにとっては、たいへん勉強になる一冊である。このように、読み手にとっては「かゆいところに手が届く」仕様である一方、書き手にとっては、限られたスペースで解説を完結しなければならないというハードルの高い仕様とも言えるであろう。

本書の内容を目次に沿って概観すると、「Ⅰ．森林資源と木材の循環利用」、「Ⅱ．木材の成り立ち」、「Ⅲ．木材と木質材料」、「Ⅳ．木材の乾燥」、「Ⅴ．木材の化学と化学加工」、「Ⅵ．木材と木質材料の強度性能」、「Ⅶ．木質構造と木造住宅」の 7 分野について、合計 143 項目と 7 つのコラムとから構成されている。

木材に関する事典類は既に何冊か刊行されているが、本書に特筆されるのは、定期的にメンテナンスが施されている解説書であるという点である。すなわち、今回紹介する本書は、1998 年 9 月の初版、2002 年 9 月の改訂版を経た、改訂第 2 版である。

改訂された時期と改訂内容を眺めてみると、それぞれの時代背景が反映されていて興味深い。改訂第 2 版において新規に追加された項目の一部を挙げてみると、「森林・林業再生プラン」、「スギ天然林の遺伝的変異」、「スギ葉緑体ゲノムの構造」、「木造建築物と LCCO₂」、「木質バイオエネルギー」、「快適な教育環境と木材」、「構造用木質材料と製造技術」、「平衡含水率と木材製品の最終到達含水率」、「スギ材乾燥の決め手はないのか?」、「出土木材の保存処理」、「木質バイオマス発電」、「木材の破壊形態と細胞構造」、「建築基準法の大幅改正とエネルギー基準」、「性能規定化で木造建築に開いた扉」など、今日の木材を取り巻く問題を考える上で欠かすことのできないキーワードが並んでいる。これらの項目は、俗っぽく言えば「テストに出る項目」といっても過言ではないであろう。更に、初版からの改訂内容を概観すれば、1998 年より 13 年間で木材に関する研究テーマや木材を取り巻く情勢がどのように変化してきたか、そのキーワードを拾うことができるであろう。果たして、次の改訂版にはどんな項目が入ってくるであろうかなどということまで考えてしまった。明るいテーマが並ぶことを願うばかりである。

本書の編集は秋田県立大学木材高度加工研究所が中心となっており、一般的な項目に対する解説に加え、研究所の成果もちりばめられている。昨今は、独立行政法人や公立研究機関では特に、その企画運営において研究の成果をいかに広く、わかりやすくアピールするかということが大きな課題となっているように思われるが、本書は、この「成果の見え

る化」を 1998 年の時点から実行してきたという点でもすばらしいと思う。

本書を出版するにあたり、執筆者にあっては膨大な知見を見開き 2 ページに縮約すると言う点において、また、編集委員にあっては改訂版からの内容の見直し、執筆者の交代・割り振り、解説内容における各項目間のトーン調整等において、それぞれたいへんな苦労があったと推察する。この種の本は改訂されることが少ないという印象があるが、本書は 3 回もの改訂を敢行し、解説内容の追加・修正だけでなく項目自体の入れ替えも行っている。そのことだけを取ってみても、本書に込められた編者および執筆者の思いが伺えよう。今回が初めての出会いとなる方も、初版からの読者も、是非手にとって、それぞれの思いで読んでいただきたく思う。

(森林総合研究所 原田真樹)